

道徳学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 6 日 (金)

学 級 2 年 B 組 (男子 16 名 女子 16 名 計 32 名)

授業者 藤森 崇浩

1 主題名 家族を大切に思う【4－(6) 家族愛】

2 資料名 「祖母と栗の木」(出典『中学道徳 2 明日をひらく』東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の授業は、内容項目 4－(6)「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」ことを目指すものである。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まってくる。そのため父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのよう思えて、反抗したい気持ちになる。しかも、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦労を分かち合いながら、人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなっている。

そのような中学生にとって、自分があるのは、祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることに気付かせることが大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して、敬愛の念を深めることが必要である。また、家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深いきずなで結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

そのために、父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く態度を育てたいと考え、この主題を設定した。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、父母からの温かな愛情を受けて生活を送っている。授業参観や運動会などの行事においても多くの保護者が参観に訪れ、生徒を激励してくださっている。

一方、生徒は保護者との関わりを疎ましく感じたり、自分のやりたいことやわがままに対して、「口うるさいこと」を言う存在と感じてしまったりする姿も見られる。また、祖父母と暮らしている生徒は少なく、祖父母と父母のつながり、家族の歴史について知ったり、思いをはせたりする機会は多くない。

そこで、本教材の学習を通して、父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもたせたい。家族の存在があってこそ今の自分があるということに気づくとともに、家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとする態度を養いたい。

(3) 資料について

本資料は、祖母の引っ越しにともない、自分だけの部屋を失うことへの不満から父母や祖母に対して冷たい態度をとってしまう中学生の姿をもとにした葛藤資料である。はじめは自分の思いを優先していたが、おばさんや祖母とのふれ合いの中から家族の歴史を知り、家族の大切さに目覚めていく主人公の心情を考えることを通して、父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚を持たせるとともに、家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとする態度を養いたいと考えた。

4 他の教育活動との関連と補充・深化・統合の視点

生徒は技術家庭科の学習の中で、自分と家族や周囲の人々との関わりについて学んできている。

学校行事としては、授業参観や運動会や文化祭などの行事で、父母や祖父母に活動を見てもらい、励ましを受ける機会もある。また、部活動の試合や大会で保護者の協力を得ながら活動し、家族の支えがあるからこそ、自分の生活があることを実感している生徒もいる。

一方で、自分がどのように家族に支えられているかじっくり考えたり、家族のありがたさに思いを巡らせたりする経験は少なく、父母や祖父母に敬愛の念を深めるといった機会は乏しい。

本時の指導は、普段じっくりと考えることの少ない家族のことについて資料をもとに考えさせ、価値の意味や自己とのかかわりについての考えを深化させる視点で指導を行っていきたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

「わたし」の心情を考えることを通して、家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとする態度を育てる。

(2) 本時の評価

道徳的実践 意欲・態度	家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとしている。 【生徒の記述例】 家族のことを思いやることが大切だと思いました。自分は自分を中心に考えてしまっていたのですが、両親や祖父母は自分のことを考えて自分に接してくれていることもあるのではないかと思います。家族とはいえ、お互いのことを考えて生活していくことが大切だと思いました。これからは、家族を大切にし、家族の思いを大切に生活していきたいと思います。
----------------	--

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応	留意点・評価
導入 3分	1. 家族のことを考える。 自分にとって家族はどんな存在か。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族のことを浮かべる。 	
展開 3分 7分	2. 資料を読む。 3. 資料のあらすじを確認する。 4. 「わたし」の心情について考える。 涙をこぼした一枝はどんなことを考えていたのだろう。 5. 「わたし」の行動をどう思うか考える。 祖母に対して冷たい態度をとる一枝をどう思うか。 6. 「わたし」の心情について考える。 ◎「この栗の実、うちの庭に植えようよ。大きく育てて、またみんなで写真撮ろうよ。」という言葉には、どんな気持ちが込められていたのだろうか。 7. 「わたし」の心情について考える。 「来てよかった」心からそう思ったのは、どうしてだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 部屋を譲りたくない。・勝手に決めるのはひどい。 試験勉強もあるのに。 大切な空間を失いたくない。 私だけの部屋だったのに。 <p>【仕方ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分だけの空間を渡したくない気持ちもわかる。 おばあちゃんは好きだけれども、冷たい態度を取るのもわかる。 <p>【良くない】</p> <ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんのことにも考えるべきだ。 おばあちゃんだって辛いはず。・自分勝手だ。 <ul style="list-style-type: none"> 祖母と一緒に暮らし大切にしていこうという気持ち 祖母とともに家族の思い出を作っていこうという気持ち。 これからは自分もおばあちゃんのように家族のことを考え、大切にしていこう気持ち。 新しい栗の木を育て、新たな家族の歴史を築いていこう。 今まで知らなかった家族の歴史や、おじいちゃんやおばあちゃんの家族を思う気持ちを知れたから。 自分の部屋がなくなる悲しさしか感じていなかったが、家族のことを考えることが大切だと気づくことができたから。 	<ul style="list-style-type: none"> 祖母が来ることはうれしいが、部屋を失うことにショックをうける主人公の気持ちに共感させる。 主人公に共感する考えと批判する考えを出させる。なぜそう考えるのか理由をあげさせる。 主人公の考えが自己中心的なものであることにも気づかせる。 自分のことばかり考えていたが、家族の歴史を知り、家を離れる祖母の辛さに気づくことによって、今まで以上に家族のことを考え、大切にしていこうと考えるようになった「わたし」の心情をとらえさせる。 「わたし」が考えたことを想起させるを通して、家族を思い、家族を大切にすることの価値について理解を深めさせる。
終末 10分	8. 価値について考えたことを書く。 ・考えたことを交流する。	家族のことを思いやるのが大切だと思います。自分は自分を中心に考えてしまっていたのですが、両親や祖父母は自分のことを考えて自分に接してくれていることではないかと思いました。家族とはいえ、お互いのことを考えて生活していくことが大切だと思います。これからは、家族を大切に、家族の思いを大切に生活していきたいと思います。	<p>【道徳的実践意欲・態度】</p> 家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとしている。

(4) 資料分析表

主題名	家族を大切に思う		資料	祖母と栗の木
本時のねらい	「わたし」の心情を考えることを通して、家族を思いやり、家族のきずなを大切にしようとする態度を育てる。			
主たる場面	主人公の心の動き	指導の意図	発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応
祖母の引っ越しにより、自分だけの空間であった部屋を妹と二人で分けることになり、失望するわたし。	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけの大切な空間を失いたくない。 祖母が来るのはうれしいが、自分だけの空間を失うことは受け入れがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 祖母が来ることはうれしいが部屋を失うことにショックをうける主人公の気持ちに共感させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 涙を流した一枝はどんなことを考えていたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部屋を譲りたくない。大切な空間を失いたくない。私だけの部屋だったのに。 勝手に決めるのはひどい。
祖母の家の引っ越しを手伝いに行くわたし。仕事のはかどらない祖母を見て、冷たい態度をとってしまうわたし。	<ul style="list-style-type: none"> 祖母のことは好きだが、自分だけの部屋を失うのはやはり嫌だ。 祖母を疎ましく思ってしまう。 自分の辛さに気づいてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちに共感させるとともに、その考えは自己中心的なものであることにも気づかせたい。主人公に対して批判的な見方もできるように仕向けたい 	<ul style="list-style-type: none"> 冷たい態度を取る一枝をどう思うか。 	<ul style="list-style-type: none"> 【仕方ない】 自分だけの空間を失いたくない気持ちもわかる。 おばあちゃんは好きだけれども、冷たい態度を取るのもわかる。 【良くない】 自分勝手だ。 おばあちゃんのことも考えるべきだ。おばあちゃんだって辛いはず。
「この栗の実、うちの庭に植えようよ。大きく育てて、またみんな写真撮ろうよ。」といったわたし。	<ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんと一緒に暮らして、おばあちゃんを大切にしていきたい。 自分も家族を思って生活したい。おばあちゃんを大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> おじいちゃんやおばあちゃんが家族を思う気持ちがあって今の家族があることに気づき、自分も家族を思い、大切にしていこうと考える主人公の思いに寄り添わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「この栗の実、うちの庭に植えようよ。大きく育てて、またみんな写真撮ろうよ。」という言葉には、どんな気持ちが入められていたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんと一緒に暮らし、おばあちゃんを大切にしていこうという気持ち。 おばあちゃんとともに家族の思い出をたくさん作っていこうという気持ち。 今後は自分もおばあちゃんのように家族のことを考え、大切にしていこうという気持ち。
「来てよかった」心からそう思い、手の中の三粒の栗の実を見つめるわたし。	<ul style="list-style-type: none"> ここに来て、自分は自分のことしか考えていないと気付いた。 おじいちゃんやおばあちゃんは家族のことを考えていたのだ。わたしもこれからは家族のことを思って生きていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんの家へ来て、家族を思う気持ちが芽生えてきた主人公の気持ちに十分に共感させたい。帰ってから、どのような思いで生活していくのか想像させたり、祖母と暮らしていくのか考えさせたりしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「来てよかった」心からそう思ったのは、どうしてだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで知らなかった家族の歴史や、おじいちゃんやおばあちゃんの家族を思う気持ちを知れたから。 自分の部屋がなくなる悲しさしか感じていなかったが、家族のことを考えることが大切だと気づくことができたから。 これからおばあちゃんを迎え、新たな家族の思い出を作っていこうと思えたから。